令和元年度 学 校 評 価 報 告

草加市立 氷川小学校
(令和2年2月5日作成)

1 学校教育目標 「学びあい 助けあって 自分を高める」 目指す児童像 ○ひ ひかる汗 (体) 高めあう子 ○か 耀く瞳 (徳) 高めあう子 ○わ わかる喜び (知) 学びあう子	
2 重点目標・努力目標 ○子どもたちが伸びる学校 ・基礎・基本の定着、授業時間の確保 ・一人一人のコミュニケーション能力の向上 ○子どもが生き生きとする学校 ・あいさつあふれる明るい学校づくり ・保護者・地域と共に歩む学校づくり ○幼保小中を一貫した教育の推進 ・谷塚中学校区一貫教育の強化・推進	3 前年度の成果と課題 成果 ○令和2年度から始まる外国語科教育の基礎作りと、コミュニケーション能力の向上 ○幼保小中一貫教育の強化・推進 ○自らあいさつができる児童の増加 課題 ●保護者・地域とのより深い信頼関係の構築

4 評価表 ※評価基準 [A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である]				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営目標、方針 校務分掌組織 適所への適材配置 職員会議等の運営 予算の執行・決算、監査等 	B	○前年度の反省を踏まえて改善された学校行事提案をもとに運営委員会を経て効率的に職員会議を運営することができた。 ●新学習指導要領の完全実施に向けて、各分掌における新しい事項や変更事項等について、共通理解が十分ではなかった。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画、実施 校内研修の推進 授業改善への取組 校外研修会への参加 人材育成 	A	○外国語活動の教科化に向けた準備を計画的に進めることができた。 ○今年度、着任した教員に対して、本校の外国語活動のスタイルや取組を定着させることができた。 ○ALTとのミーティングを各担任が適宜行い、授業の中で連携しながら円滑に授業を進めることができた。
	③保健管理・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 環境衛生の管理 健康観察、安全点検 緊急事態発生時の対応 危機管理マニュアルの作成・活用 	B	○保健及び安全計画に従い、年間を通じて概ね予定通り実行することができた。 ○毎月行っている施設の安全点検にこだわらず、教職員一人一人が施設の安全面に対する意識を高く持ち、その都度管理職へ報告し、情報を共有して注意喚起を行い、必要に応じて修繕や補修の依頼を行うことができた。 ●本校児童が下校中や、放課後に不審者に遭遇したり、学区内で目撃された不審者情報がメール配信されたりする機会は年々増加している。火事や地震だけでなく、不審者対応訓練も外部講師を依頼して行うなどの取り組みが必要と感じた。

<p>④情報管理・施設設備管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個人情報の管理方法について、内規を定め、管理職の許可の下、取り扱っている。 ○開放団体における校庭、体育館の使用、平成塾、放課後児童クラブの校舎内施設の利用等、校舎を有効利用できている。 ●情報管理については、チェックリストを活用して定期的に点検するなど、常に高い意識をもって個人情報を取り扱えるような仕組み作りをしていきたい。
<p>⑤地域との連携 開かれた学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会、学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校応援団を中心に、たくさんの地域の方々にお世話になるとともに、教職員もそれらの活動に積極的に参加して交流し、絆を深めることができた。 ○10月に行われたふれあい広場では、教員と保護者が連携して楽しいイベントを企画するなど、地域の方々を含めた多くの方にご来場いただき、大盛況であった。 ●学校ホームページの更新を定期的に行うことができなかった。校務分掌で作業を明確に位置付け、計画的に取り組んでいきたい。
<p>⑥幼保小中を一貫した教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じた教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校区全体で目指す子ども像を共有し、幼保小中一貫教育を深め、その成果を研究発表として示すことができた。 ●より中学校区の児童・生徒の実態に即した一貫教育の取組や、各教科における指導内容について研究を深めていきたい。

草加市立氷川小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じた教育課程の編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	B	<p>○中学校区の目指す子ども像が、本校の教育目標に沿っているため、教職員一人一人が意識して学校行事や授業に取り組むことができた。</p> <p>○年度当初に作成した教育計画に従って、見直しをもって教育活動を進めることができた。</p> <p>●15年間を通じた教育課程の編成、実施については、各教科・領域において児童・生徒の実態に即した指導方法等を研究していく必要がある。</p>
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<p>○各学年、各教科の進捗状況を学期毎に学校全体で確認し、計画的に指導することができた。</p> <p>●本校児童の実態に応じて今年度以上に、適切かつ積極的に、地域の人材やエキスパートを活用していきたい。</p>
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	A	<p>○教科化に伴い、外部講師を招いての研修会を重ね、授業展開や評価方法等について理解を深めることができた。</p>
	④外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	A	<p>○中学校と乗り入れ授業を実施し、ALTと担任と合わせた3人で授業を実践できたことや、一貫教育の視点を取り入れながら授業を展開できた点はとても効果的であった。</p>
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<p>○年間計画に基づき、学校行事や児童会活動に取り組むことができた。</p> <p>●年間を通じて、児童が主体的に児童会活動に取り組む仕組みを構築していきたい。</p>
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	B	<p>○第3学年では、枝豆の達人として地域の方をお招きして枝豆の育て方を教わったり、栄養教諭より枝豆の知識を学んだりした。また、町の達人として地域に暮らすさまざまな方を達人としてお招きするなど、地域の人材を積極的に活用することができた。</p> <p>●年間70時間を計画的かつ有効に活用できるように各学年の年間計画を見直す必要がある。</p>
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	A	<p>○生徒指導上の問題が生じた際には、迅速に報告・連絡・相談を行い、大部分の事案において、即日対応・解決することができた。</p> <p>●いじめの未然防止への取組を全教員で共有して取り組んでいきたい。</p>
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<p>○年度当初に計画した行事は、中学校と連携して円滑に実施することができた。</p> <p>●総合的な学習の時間だけでなく、教科横断的な視点に立って取組が十分にできなかった。</p>
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	A	<p>○支援学級児童は、図工や音楽を始め、個に応じた様々な教科で通常学級の授業に積極的に参加することができた。</p> <p>○本校はサポート教室を併設しており、保護者や担任が常に教育相談できる環境を有効に活</p>

⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 指導計画、支援計画の作成 ▪ 図書館補助員の活用 ▪ 諸機関との連携 ▪ 図書館の整備 ▪ 図書館利用の工夫 	A	<p>○司書教諭と学校司書が協力して、整備に努めることができた。</p> <p>○図書委員会の児童がアイデアを出し合って、より本や読書に親しんでもらえるように、さまざま取組を実践することができた。</p>
⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 教育計画の作成 ▪ 校内研修の充実 ▪ ICT機器の積極的な活用 ▪ 情報モラル教育の推進 	B	<p>○タブレット端末を利用して、デジタル教科書を活用するなど、各担任が積極的にICT機器を活用することができた。</p> <p>●プログラミング教育に向けて外部講師をお招きして研修等を実施したが、教職員の理解には差があり、継続して研修を重ねていく必要がある。</p>
⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 全体計画の策定 ▪ 各教科との関連 ▪ 人権感覚の育成 ▪ 校内研修の充実 	B	<p>○LGBT研修を実施し、学校現場で必要な配慮や理解を深めることができた。</p> <p>●教科横断的な視点に立った人権教育の授業実践が十分に行えなかった。</p>

草加市立氷川小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
III 特色ある学校づくり	基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の充実 ・教育計画の工夫 ・家庭学習の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年度中学校区内で家庭学習の約束や授業の約束を統一して取り寄せたが、今年度はさらに家庭学習を徹底させた。 ○全国学力学習状況調査、埼玉県学力学習状況調査、草加市学力学習状況調査において市、県、全国の平均を上回ることができた。 ●各学力状況調査における質問紙調査の結果と学力の相関関係を検証して、本校児童の実態を的確に分析する作業が十分に行えなかった。
	コミュニケーション力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の充実 ・教育計画の工夫 ・指導方法の工夫と改善 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校区の目指す子ども像の実現に向けて、幼保から各発達段階に応じた話し合い活動の充実に努めることができた。 ○草加市教育委員会より委嘱を受けて、外国語活動の研究に取り組んでいる。英語を通してコミュニケーションを楽しむ活動に低学年から楽しく取り組むことができた。
	生徒指導・教育相談の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・校内支援体制の整備 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導上の問題が生じた際には、迅速に報告・連絡・相談を行い、学年、管理職が連携して即日対応にあたることができた。 ○中学校のさわやか相談員および養護教諭が、毎月開催されるいじめ防止対策委員会および生徒指導員会に同席し、より多角的にいじめの認知を行うとともに、互いの情報を共有したり、取組を連携したりすることができた。 ●長期欠席の未然防止およびいじめ解消までの経過観察について、全教員への共通理解、共通行動が不十分であった。

5 総合評価 (学校関係者評価を含む)

- ・児童が落ち着いており、保護者の方々も学校教育に理解があり、協力的であることが何より良いことだと思う。
- ・生徒指導に関しては、各教員が迅速な対応、報告連絡相談を徹底していたので、早めの対応、組織的な対応をすることができたと感じる。
- ・校長先生を中心に地域との関係づくりは去年に比べ、できたと考える。また、地域や保護者と連携しながら、あたたかな学校づくりができた。そして、地域の方の温かいご支援のもと、登下校の安全なども確保され、児童も安心して学校生活を送れていた。
- ・運動会や校内音楽会の学校行事も、職員が一丸となり、子供たちの力を十分に発揮させることができた。
- ・外国語の研修で、昨年よりも指導力が向上できたと思う。また、幼保・中学校の教育を意識して取り組むことができた。
- ・幼保小中の研究発表に向けて連携が図れた。また、1、2年生との幼稚園交流、保育園交流も計画的に行われていた。
- ・校外学習など、学校行事の精選をして良かった。
- ・「学校経営方針が、全体に行きわたっていると思います。」(学校評議員)「児童がとても明るいので安心です。」(学校評議員)などの評価をいただいている。

6 次年度の改善策

- ・集金について；給食費・PTA会費を銀行振り込みにしてほしい。
- ・無言清掃など教員間の共通理解が十分に図れないところがあったので、4月に共通事項の確認、徹底を行っていききたい。また、周知したものは、全職員で徹底した指導にしたい。指導に温度差がないように。
- ・教育活動の精選は必要であるが、残す、無くすの話になったときに、しっかり教育効果について話し合う場面が必要であるとを感じる。各主任がそれぞれの活動の意義や目的を把握し、提案していくことが必要だと思う。
- ・運動会の熱中症対策および組体操のあり方については最善策を検討していききたい。
- ・年度初めに、校内危機管理マニュアルの配付と職員室の掲示が必要であった。緊急事態の時の対応に関わる内容である。また、不審者対応、竜巻対応訓練などは実施できなかったもので、来年度の計画に入れていきたい。
- ・校内研修や会議では、時間を決めて進めたい。
- ・夏休みのプールは実施と中止の判断基準をより明確にして全教職員で共有していききたい。
- ・業務の書面化を行い、引継ぎが確実にできるようにしていきたい。